

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画A	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	3単位(51時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築計画Aは、2級建築士の試験科目学科Ⅰの中で、各論・都市計画・建築史をその範囲とする。1、2年又は3年での基礎を踏まえて、2級建築士試験の合格を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・住宅建築 ・商業建築 ・文化施設 ・教育施設 ・医療施設 ・福祉施設 ・各部計画 ・建築生産 ・都市計画 ・計画各論用語 ・建築史
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験1
第23回～ ～第24回	学科試験対策	・実力判定試験2
第25回～ ～第26回	学科試験対策	・総合学力判定試験

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画B	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	3単位(51時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市（空調設備会社、建築設備事務所で施工管理、設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築計画Bは、2級建築士の試験科目学科Ⅰの中で、原論・設備をその範囲とする。1、2年又は3年での基礎を踏まえて、2級建築士試験の合格を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・気候・空気 ・熱 ・光 ・音 ・色彩 ・空気調和設備 ・給水設備 ・排水・衛生設備 ・電気・照明設備 ・消火・防災設備 ・環境・省エネルギー
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験1
第23回～ ～第24回	学科試験対策	・実力判定試験2
第25回～ ～第26回	学科試験対策	・総合学力判定試験

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	宮野 人至(建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築法規は、学科試験4科目の中の重要科目の一つである。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・用語の定義 ・確認申請 ・面積・高さ ・手続き ・採光 ・一般構造① ・一般構造②
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験、個別補修
第23回～ ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・用途地域 ・避難施設 ・構造 ・防火区画 ・内装制限 ・建築士法 ・高さ制限 ・雑則 ・その他関連法令
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	・演習テスト ・総合学力判定試験
第50回～ ～第51回	学科試験対策	・直前対策講座

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸（建築設計事務所で、構造設計、耐震診断業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での構造は、構造力学と一般構造の二科目を兼ね備えた試験4科目の中の一つの重要科目である。1・2年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第25回	学科試験対策 (一般構造編)	ガイダンス 荷重、外力 構造計画 地盤、基礎 木造 鉄筋コンクリート造 壁構造 鉄骨造
第26回～ ～第51回	学科試験対策 (構造力学編)	力のつり合い 反力 応力 トラス 断面の性質 座屈 応力度

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築施工は、学科試験4科目の中の重要科目の一つである。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・契約 ・施工計画 ・管理計画 ・仮設工事 ・地盤・土工事・基礎 ・鉄筋工事 ・型枠工事 ・コンクリート工事 ・鉄骨工事 ・コンクリートブロック工事 ・ALCパネル・押出成形セメント板工事
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験、個別補修
第23回～ ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・木工事 ・防水工事・屋根工事 ・左官工事 ・タイル石工事 ・塗装工事 ・建具・ガラス工事 ・内装工事 ・改修工事 ・設備工事 ・施工機械・器具 ・測量 ・積算・見積
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	・演習テスト ・総合学力判定試験
第50回～ ～第51回	学科試験対策	・直前対策講座

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築企画論	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	中島 智弘（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所を主宰する教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築基準法の体系で最も重要と思われる集団規定の分野で、学生の理解が難しい「日影規制」と「天空率」に的を絞って解説する。また、この二つの知識は経済行為として行われる建築の事業計画において、必須の知識でもある。実践的な事業計画の立案と、その成否のポイントとなる日影規制と天空率をセットで学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も随時取り入れる。また、スライドやDVD、実際のデジタルデータなどのサンプルなども使用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	建築基準法の集団規定とは・日影規制とは・天空率とは・事業収支計画とは
第2回	集団規定とは	建築基準法の集団規定の考え方とその主な規制について
第3回	集団規定の基本①	都市計画法と都市計画図の読み方①
第4回	集団規定の基本②	都市計画法と都市計画図の読み方②
第5回	集団規定の基本③	斜線制限と日影規制と天空率
第6回	集団規定の基本④	容積の最大ボリュームとは
第7回	日影規制とは	日影規制の概要
第8回	日影規制の基本①	斜線制限と日影規制
第9回	日影規制の基本②	部屋設定・カラスキームと面積について
第10回	JWCAD の基本操作①	JWCAD の基本操作①
第11回	JWCAD の基本操作②	JWCAD の基本操作②
第12回	JWCAD の基本操作③	測定線・時刻日影図・等時間日影図などの作成①
第13回	JWCAD の基本操作④	測定線・時刻日影図・等時間日影図などの作成②
第14回	日影規制の基本③	作成した日影図の適・否の判定
第15回	日影規制の基本④	容積最大ボリュームの意味
第16回	日影規制の基本⑤	日影規制による容積最大ボリュームの取り方①
第17回	日影規制の基本⑥	日影規制による容積最大ボリュームの取り方②
第18回	天空率とは	天空率の概要
第19回	計画建物とは	計画建物とは
第20回	適合建物とは	適合建物とは
第21回	天空率の基本①	JWCAD による天空図の作成①
第22回	天空率の基本②	JWCAD による天空図の作成②
第23回	天空率の基本③	JWCAD による天空図の作成③
第24回	天空率の基本④	JWCAD による天空図の作成④
第25回	天空率の基本⑤	天空率による斜線緩和の適・否の判定
第26回	天空率の基本⑥	天空率による容積最大ボリュームの取り方①
第27回	天空率の基本⑦	天空率による容積最大ボリュームの取り方②
第28回	建築プロジェクトと事業収支	建築プロジェクトによる事業収支計画とは
第29回	事業収支の基本①	事業収支計画の基本
第30回	事業収支の基本②	事業収支計画の重要事項について
第31回	事業収支の基本③	事業収支計画の立案
第32回	事業収支の基本④	具体的なモデルを使って実際に事業収支を作成する①
第33回	事業収支の基本⑤	具体的なモデルを使って実際に事業収支を作成する②
第34回	事業収支の基本⑥	具体的なモデルを使って実際に事業収支を作成する③

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	学科強化講座	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	3単位(51時間)	開講・履修期	2022年度：1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	当学科の建築計画・建築法規・建築構造・建築施工の教員が担当する。当該科目の教員紹介を参照のこと。				
授業の到達目標	当学科における前期の最大の到達目標は、二級建築士合格である。その目標のための学習を、科目別及び自習形式と少人数による補習授業で実施している。				
授業の概要及び特徴	原則、講義科目であるが、自習形式又は少人数による補習講義となる。通常の授業は科目ごとに行われるが、学生個々に学習の進捗状況・到達度に差があり、特にその差は科目ごとに個人差が大きい。そこで、この授業では学生が決められた科目ではなく、自分で遅れている科目、苦手な分野などを各々で強化するための授業としている。授業には毎回、1名から数名の各担当教員が入り、学生からの質問を受けたり、1名～数名程度で補習授業を行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第26回	担当教員との質疑応答 学生同士による勉強会 1名～数名による補習講義 自習形式による学習	原則、講義科目であるが、自習形式又は少人数による補習講義となる。そしてこの授業では、学生が決められた科目ではなく、自分で遅れている科目、苦手な分野など見つけ、そこを各々で強化するための授業とする。しかし授業には毎回、必ず、1名から数名の各担当教員が入り、学生からの質問を受け、指導できる体制である。また、1名～数名程度で補習授業を頻繁に行う。学生個々の、学習の進捗状況・到達度の差をカバーするための授業とする。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築士製図	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	10単位(328時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至（建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	2級建築士試験の二次試験である設計製図試験のための知識・技術を修得し、本試験において必ず合格できる実力を養うことを目標とする。 授業項目順に講義・演習を行い、後半は模擬試験形式で実力を養い試験に備える。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第45回	製図試験対策 製図試験対策	ガイダンス 各図面の作図手順説明・演習 平面図 屋根・床伏図 断面図・立面図 部分詳細図 作図トライアル
第46回～ ～第80回	製図試験対策 製図試験対策	課題文の読取り手順説明・エスキス演習 課題文の読取り方の説明 エスキスに使う単位の説明 敷地の使い方(有効利用)の説明 プランニングの基本を説明 建物の想定床面積の計算 エスキスの実践
第81回～ ～第115回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・課題文の読取り・エスキス・作図 試験時間5時間で完成させるための練習
第116回～ ～第164回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・模擬試験 模擬試験形式で課題をこなし、多様な課題に対処できるように練習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業研究	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2022年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所、住宅、事務所、工場等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 磯部 邦夫（設計事務所、住宅から大規模ビルの意匠設計並びに工業化住宅の研究・開発に従事している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「卒業研究」では、企画の立案、敷地の選定等を自分で行う。実際に敷地を調査し・構造・規模を決定する。役所調査も行い、法規に合うような建築設計を行う。構造、用途、コンセプト等を設定し、実務に近い建築設計(計画)ができることが目標である。スケジュール管理も行い、実務に即した演習とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	授業は演習形式を主体とするが、必要に応じて校外授業なども取り入れる。また、映像やスライドなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。課題制作は、個人またはグループによる制作とする。二級建築士の学習も終了しており、より専門的な知識と技術を生かして課題作成に当たる。役所調査等の実務演習も取り入れる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第11回～ 第15回～ 第30回	課題の要項説明 敷地調査・役所調査 企画・コンセプト エスキス① エスキス② エスキス③ エスキス④	・「卒業研究」の課題内容と要求図面等の詳細を説明する ・各自で設定した敷地の現地調査及び役所にて関連法規等の調査を行う ・企画を立案し全体スケジュールを設定、コンセプトを練り上げる ・建築士になるために勉強した専門知識を生かし、社会において今何が建築に求められているかを考察する ・コンセプト・敷地・用途・構造の設定は自由である ・既存の建築物のリノベーション、コンペ等を研究テーマとして選んでも良い
第31回	中間発表	・社会に何を提案できるかを、図面(作成途中)やスタディ模型を使い、発表する ・コンセプトに迷いが無いかをチェックし、不具合があれば指導する
第33回～ 第60回	図面・模型の作成① 図面・模型の作成② 図面・模型の作成③ 図面・模型の作成④ 図面・模型の作成⑤	・必要な図面の作成に取り掛かる ・途中でチェックを受けながら、軌道修正する ・ある程度図面(パースも含む)ができてきたら、模型の作成に取り掛かる ・図面と模型、パースの整合性を確認し、食い違いは直すよう指導する ・図面と模型を完成させる
第61回～ 第66回	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	・コンセプトのまとめ方、発表における図面表現、模型写真の選定、及び全体の図面レイアウトを指導する
第67回～ 第68回	クラス講評会	・クラス内でプレゼンテーションを行う。 ・他の作品発表を通して、今後の研究に向けたモチベーションの向上、知識・技術の更なる向上を目指す

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パラメトリックデザイン	開講学科	建築設計研究科（建築コース）	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位（68時間）	開講・履修期	2022年度・1年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	安部 裕一（企業向けのCADやプログラミングの講師や建築現場でのBIM推進支援の業務の経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	コンピューターを使った、3次元デジタルデザインモデルの構築に必要な基礎知識を学ぶ。主にライノセラス＋グラスホッパーを使用し、アルゴリズムを視覚的に構築し、スクリプトを使用して拡張可能なデザイン手法の基本を理解することが目標である。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。しかし、テキストを使った講義による時間も、適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	ライノセラスについて①	ライノセラスの仕組み・インターフェイス
第3回	ライノセラスについて②	ライノセラスの基本操作
第4回	ライノセラスについて③	ライノセラスのモデリング①
第5回	ライノセラスについて④	ライノセラスのモデリング②
第6回	ライノセラスについて⑤	ライノセラスのモデリング③
第7回	グラスホッパー①	グラスホッパーの仕組み・インターフェイス
第8回	グラスホッパー②	グラスホッパーの主要なコンポーネントの役割
第9回	グラスホッパー③	グラスホッパーのモデリング①
第10回	グラスホッパー④	グラスホッパーのモデリング②
第11回	グラスホッパー⑤	グラスホッパーのモデリング③
第12回	グラスホッパー⑥	グラスホッパーのモデリング④
第13回	グラスホッパー⑦	グラスホッパーのモデリング⑤
第14回	グラスホッパー⑧	グラスホッパーのモデリング⑥
第15回	グラスホッパー⑨	グラスホッパーのモデリング⑦
第16回	グラスホッパー⑩	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デジタルデザインⅢ	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	絹巻 俊史（実務経験を持つ一級建築士であり、有名組織事務所に勤務する教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	BIMツールとしてRevitの基本操作を習得し、建築設計の一つの要点として設計の進め方(タスクとフロー)という観点からどのようにBIMを役立たせるかを説明できるようになること。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。しかし、テキストを使った講義による時間も、適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	講義全体の俯瞰(講義目的の説明・BIMとは何か・実務との関係・Revitの紹介など)
第2回	Revitでのモデリング①	データ構成とソフトウェアのコンセプトなど
第3回	Revitでのモデリング②	準備作業・レベル設定など
第4回	Revitでのモデリング③	データ挿入・壁の作成・床の作成
第5回	Revitでのモデリング④	間仕切りの作成
第6回	Revitでのモデリング⑤	建具の配置について
第7回	Revitでのモデリング⑥	天井の作成
第8回	Revitでのモデリング⑦	グループ化・コピーについて
第9回	Revitでのモデリング⑧	部屋設定・カラスキームと面積について
第10回	Revitでのモデリング⑨	廊下とバルコニーの作成・上階の作成
第11回	Revitでのモデリング⑩	エントランス等の作成・階段の・パラペットの作成
第12回	Revitでのプレゼン①	マテリアル・方位・パースビュー・クラウドレンダリング①
第13回	Revitでのプレゼン②	マテリアル・方位・パースビュー・クラウドレンダリング②
第14回	Revitでの図面作成①	一般図の作成①
第15回	Revitでの図面作成②	一般図の作成②
第16回	Revitでの図面作成③	平面詳細図の作成①
第17回	Revitでの図面作成④	平面詳細図の作成②
第18回	Revitでの図面作成⑤	面積図の作成・断面図の作成・データ書き出し
第19回	Revit特有の考え方①	プロジェクトテンプレート・ビューテンプレートを知る
第20回	Revit特有の考え方②	ファミリー・集計表などを知る
第21回	小テスト	簡単な建物をRevitで組み立てる
第22回	実例の紹介	実務で利用されているRevitファイルの紹介
第23回	タスクとフロー①	タスクとフローとフローとは何か①
第24回	タスクとフロー②	タスクとフローとフローとは何か②
第25回	タスクとフロー③	タスクとフローとフローとは何か③
第26回	タスクとフロー④	タスクとフローの重要性和BIM①
第27回	タスクとフロー⑤	タスクとフローの重要性和BIM②
第28回	タスクとフロー⑥	ステークホルダーとの関係におけるタスクとフロー①
第29回	タスクとフロー⑦	ステークホルダーとの関係におけるタスクとフロー②
第30回	タスクとフロー⑧	ステークホルダーとの関係におけるタスクとフロー③
第31回	BIMにおける注意点①	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか①
第32回	BIMにおける注意点②	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか②
第33回	BIMにおける注意点③	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか③
第34回	BIMにおける注意点④	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか④

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週